

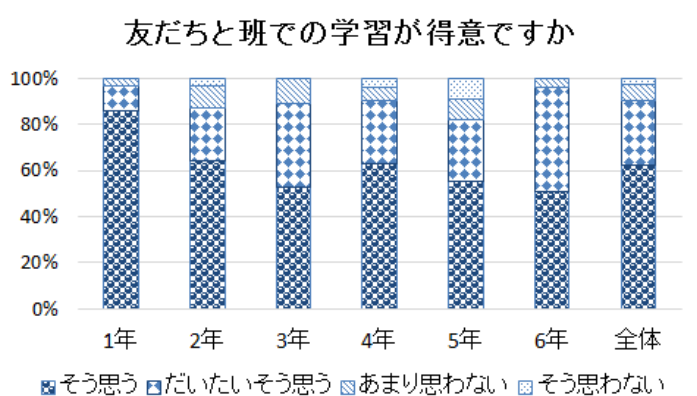
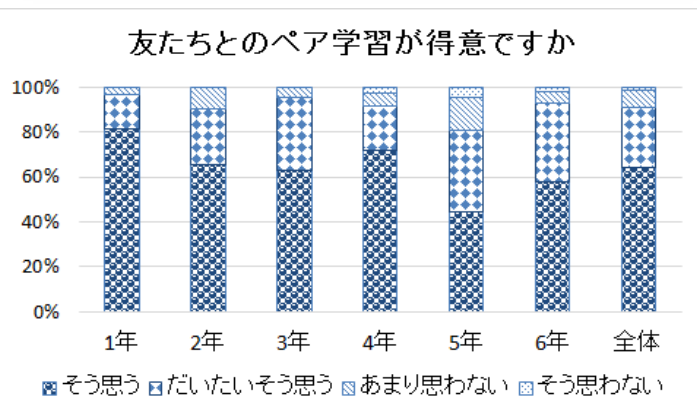
交流活動に重点を置いた学力向上への取組を振り返って

今年度、学力向上対策の一貫として、子ども達自身の考えを深めたり、表現したりする力を付けるために「交流活動」に重点を置いて取り組んできました。全員参加の土壌をつくり、「思考」→「判断」→「表現」という流れで交流活動を組んできました。重点化した取組は、まだ1年が経っていませんが、子ども達の感想などから分析してみました。

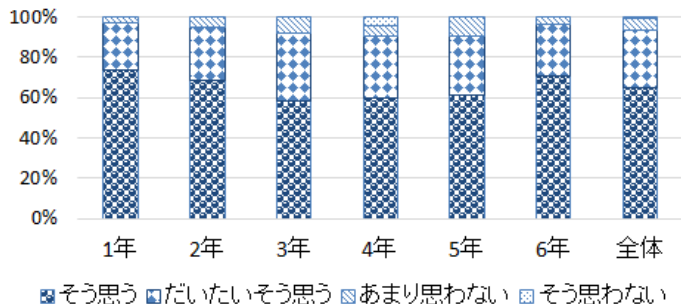


班で考えの練り上げ

2学期末に行ったアンケートを次ぎに示します。



友だちの話を聞いて「あそうか、なるほど」などと思うことはありますか



子ども達は、友だちとのペア学習や班学習について9割くらいの子が得意と感じていました。1学期にも同じアンケートを実施していますが、2学期は向上しています。友だちの意見を聞いて、「あ、そうか。なるほど」と思う子もほぼ9割に達しています。

学年間の多少の違いはあるものの、このような結果から、おおむね学習の中に交流活動を取り入れることに抵抗もなく、また、新しい考えの吸収の場になっていると考えられます。しかし、苦手と思う最も多い理由には、

「間違えると恥ずかしい」と感じることで、間違っても決して恥ずかしい事ではな



テレビを用いた効果的な発表

いことも話していきたいと思います。

ここでは、本校の取り組みの一部を示したにすぎませんが、明らかに自分で考えたことを表現する力は付いていると感じます。学力テスト等で顕著な数値として表れるまでには至っていませんが、今後も教職員は、子ども達の学力向上のために頑張っていきます。

